

イナカムビジネスコンテスト 本選大会

オンライン観覧者募集中

2021年2月13日(土)



申込方法 <https://pasona-nouentai.co.jp/anke/138>

PROGRAM コンテストの流れ

12:50	開場
13:00	オープニング
13:15	起業家によるピッチ (プレゼンテーション・審査員からのフィードバック)
16:35	結果発表、クロージング
17:05	交流会

JUDGE 審査員



株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO
及川智正氏

東京農業大学農学部卒業。学生時代から農業への危機感を覚え、会社員を経験後、農業界へ転身。農業3年、八百屋1年の経験を活かし、2007年に株式会社農業総合研究所を設立。起業後12年で取扱高100億円を達成。農業ベンチャー初の上場企業。NPO法人日本プロ農業総合支援機構の運営会員を兼任。Japan Venture Awards2016 経済産業大臣賞受賞、一般社団法人東京ニュービジネス協議会第11回IPO大賞ルーキー部門受賞、東京農大経営者フォーラム2017東京農大経営者大賞受賞他多数。



ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社
取締役 人事総務本部長 島田由香氏

Team WAAI 主宰、YeeY Inc. 代表、Delivering Happiness Japanチーフコーササルタント、Japan Positive Psychology Institute代表、米NLP®協会マスタープラクティショナー、マインドフルネスNLP®トレーナー。ポジティブ心理学プラクティショナー。慶応義塾大学卒業後、2002年米国ニューヨーク州コロンビア大学大学院にて組織心理学修士取得。2014年より現職。学生時代からモチベーションに関心を持ち、キャリアは一貫して人・組織にかかわる。日本の人事部「HRアワード2016」個人の部・最優秀賞、「国際女性デー|HAPPY WOMANAWARD 2019 for SDGs」受賞。



株式会社パソナグループ 常務執行役員
進藤かおり氏

株式会社パソナグループにてベンチャー推進の責任者を務める。起業による雇用創出を目指し、社内起業家の輩出に力を注ぐ。様々なビジネスモデルの分析など、日系投資顧問会社のファンドマネジャーだった経験も活かし社内起業家のメンターや事業構築に携わる。



株式会社ファーマーズ・フォレスト代表 取締役社長
松本謙氏

農林公園るまんちゅく村(平成24年道の駅うつつのみやろまんちゅく村として供用開始)や宇都宮ブランドアンテナショップ「宮カフェ」の運営をはじめ、東京ソラマチ4Fの栃木県アンテナショップ「とちまるショップ」、地域産品セレクトショップの「緑ENISHI」や、「宮こだわり野菜農産物直売所」「コエド市場」などを運営、栃木県の「地域商社」として農産物直売や特産品の流通等直営事業を幅広く展開している。

INACOME

農林水産省の起業促進プラットフォーム

農林水産省が仕掛ける農山漁村の起業促進

INACOME BUSINESS CONTEST 2021.2.13

INACOMEとは

起業支援プラットフォーム「INACOME」(イナカム)は、農山漁村における豊富な資源とやる気溢れる人材、そして必要な資金を組み合わせることで、新しい考えや自由な発想を取り入れたビジネスを生み出すことを目的とした、Webプラットフォームです。

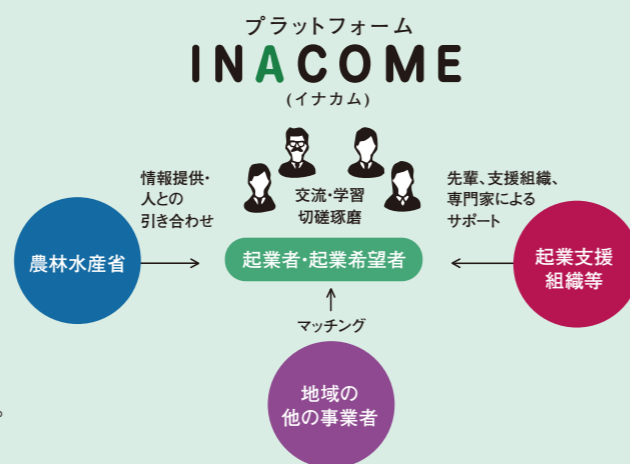
- ビジネスマッチング ● 経営相談 ● PR
- コネクション ● 情報交流 ● 資金調達



inacome.jp 検索

農林水産省が運営するプラットフォームです。
登録料・利用料は一切かかりません。

農山漁村での起業をフルサポート



農山漁村地域の起業に
「チカラ」を。
そのビジネスプランに
「ヒカリ」を。

問合せ先

農林水産省大臣官房政策課 担当者: 巻田、戸澤
代表 ☎ 03-3502-8111 (内線 3088)
ダイヤルイン ☎ 03-3502-6565 FAX番号 ☎ 03-3508-4080

株式会社パソナ農援隊(事務運営会社) 担当者: 後藤
☎ 03-6734-1260 ☎ 03-6734-1269

農林水産省 INACOME

主催 農林水産省 運営会社 株式会社パソナ農援隊

ABOUT INACOME イナカムの概要

農山漁村地域が活力を取り戻し、持続的な発展を実現するためには、なによりもまず地域に雇用と所得を生み出すことが重要です。

農山漁村には魅力的な資源が豊富にあり、これを活用した多様な事業を起こすチャンスに溢れています。

農林水産省では、この豊かな資源を活用した新たなビジネスの創出を促すため、

地域の資源と人材そして資金を組み合わせる起業支援プログラム『INACOME』を実施しています。

FINALIST 登壇者(五十音順)



継ぎたい日本が見つかる「日本継業バンク」

ニホン継業バンクは、経済合理性を優先する社会では「価値がない」と言われかねない地域の小さな仕事の本質的な価値を伝え、継ぎ手とつなげる「事業承継版・空き家バンク」です。地域との協働モデル(サブスクリプション)で、M&Aでは承継されない極小規模事業や技術の承継を促進しています。

浅井 克俊(北海道三笠市、石川県七尾市、岐阜県郡上市、岡山県美作市、岡山県瀬戸内市)



日本初! 農福連携人材マッチング農Care

人手不足で困っている農家と就労機会を得たい障がい福祉事業所を、請負型でウェブマッチングする日本初のサービスです。システム化することで、従来から農福連携の課題であった人件費を大幅に削減でき、農作業マニュアルがあるので安心・安全に就職までサポートできます。

石川 浩之(愛知県豊橋市[愛知県東三河地域および静岡県遠州地域])



75歳以上のおばあちゃんたちが働ける会社

75歳以上のおばあちゃんたちが働く会社。おばあちゃんたちが働くことで「生きがい」と「収入増」を作ります。おばあちゃんたちの得意と特性を活かした「食」と「料理」とともに、おじいちゃんや若者もタッグを組み、高齢者と若者農家30農園以上とのコンソーシアム(共同体)を作ります。超高齢化が進む福岡県うきは市の農村で、多世代で協力して働く「協働」の農村づくりを実現します。

大熊 充(福岡県うきは市)



スマート体験農園システムの開発と拡大展開

スマート体験農園システムの提供により、農園には日々の畑の営みをコンテンツとして配信し「行っても行かなくても畑を遊べる」スマートサービス提供による収入増を、エンドユーザーには畑のコンテンツやサービスから畑とつながる豊かな毎日をお届けします。結果、農園の収入増による担い手不足解消と、スマートに畑とつながる人が増えることによる関係人口拡大の両方にアプローチします。

岸 圭介(神奈川県南足柄市から全国へ)



「球磨焼酎粕×微生物」で持続可能な農業へ

球磨焼酎粕で培養可能な光合成細菌を、大量に培養するためのキット「くまレッド」の研究・開発・販売を行っています。付加価値の低い「焼酎粕」を利用することで、光合成細菌を安価に提供することが可能です。この事業を通して、焼酎粕が宝となり、農水畜産業の生産性・品質向上のみならず、環境に配慮した安心安全な食を世界中の人々に届けます。

古賀 碧(熊本県熊本市)



シカ革から始まる持続可能な里山づくり

鳥獣被害や竹林の乱立等、里山の問題を解決し、持続可能な里山を形成するため、個体数管理のために捕獲されたシカの革製品販売や、里山を活用したキャンプ場の経営などによって得られた利益の一部で里山の整備を行うビジネスプランです。

小島 慎太郎(福岡県糟屋郡新宮町)



「新シルク経済圏」構想

養蚕はかつて日本の基幹産業でした。しかし、日本の人件費が高騰する中で衰退してしまいました。一方、シルクの世界市場はその後も拡大を続け、年間2.5兆円です。我々は、「次世代養蚕システム」という、人件費に左右されない新しい手法を引っ提げてここに再参入します。日本のお家芸を取り戻し、シルク製品を日常的に、気軽に活用できる世界を手繰り寄せ、人々を豊かに、健康的にします。

沢井 拓(山梨県南巨摩郡富士川町)



農業×テクノロジーでプラスチックをつくる

非食用米を原料にバイオマスプラスチック・ライスレジンの生産を行っています。脱炭素社会への転換に向け、政府は2030年までにバイオマスプラスチックを197万トン導入することを目標としており、お米を資源と捉え、新市場開拓用米制度によりライスレジンの原料米を生産することで二酸化炭素排出削減等の環境問題、お米の需要創出、耕作放棄地対策、農業収入対策等の社会的課題の解決を目指します。

中谷内 美昭(新潟県南魚沼市 及び 福島県双葉郡浪江町[浜通りエリア])



ジャンボタニシ駆除サービス

はじめまして! 学生団体ReBranです! 私たちは日本の田園風景を守るため「技術開発」と「価値創造」の二軸で活動しております。今回提出させていただくプランは技術開発の中の一つです。日本全国で繁殖を続け、稲作に甚大な被害を出している外来生物「ジャンボタニシ」。有効な駆除手段が確立されていないこの害虫に対し、私たちReBranがドローンによる新たな選択肢を提案します!

橋本 単佑(奈良県)



第三者継承の支援

新たな第三者継承の形を提案します。我が社は継承元の農業経営者を斡旋し、継承先(新規就農者)は一旦、我が社に入社してもらい、新規会社を設立し「子会社の社長」という形で就農します。第三者からサポートを行い、将来的に子会社の売却という形で独立を目指してもらいます。元ある承継と新しい承継を掛け合わせ、チームで就農するといった形と継続的な経営支援を提供します。

平戸 裕馬(愛媛県松山市)



まめな手形プロジェクト

まめな手形プロジェクトは、瀬戸内海に浮かぶ大崎下島久比地区で、現地に残る自給自足や物々交換の文化を活かしながら、木を削って作られた棒「まめな手形」を用いて、ありがとうで物事が回る感謝経済を復活させるというものです。地域内外との相互扶助の流れにより、お金がなくても生きていくことができる社会を実現させ、これからの生き方を変えていきます。

福島 大悟(広島県呉市大崎下島久比地区)



ウニ畜養で磯焼け対策と循環型社会の実現へ

地球温暖化による海水温上昇などが主な原因となり、増えすぎたウニによって海藻の森、藻場が食い荒らされる磯焼け問題。その解決策として厄介者となったウニを地元漁業者から買い取ることでウニ駆除・間引き活動を促進します。また、厄介者のウニを陸上で畜養することで地域特産品となる美味しいウニに変え、海の環境保全と地域漁業の持続的な発展を同時に叶える循環型ビジネスを実現させます。

山本 雄万(磯焼けが発生している全国の沿岸地域全域)



森林で行うサバイバルゲーム事業

山主から山林を借りて、サバイバルゲームへ森林フィールドとして提供し、サバイバルゲームから頂いた利用料の一部を、山主へ「造林促進費」として還元し、市町村へ「造林サポート基金」として分配し、市町村は山主へ「造林サポート基金」を還元することで、補助金無しで再造林可能にします。林業家だからこそ出来る、地域活性化にも繋がるサステナブルな林業を目指します。

渡部 真之助・蛭間 祐介・勝 泉貴(栃木県下都賀郡壬生町)